

時間	内容	スピーカー
9:30 ~ 9:40	開会挨拶	中村 清吾 Seigo Nakamura
9:40 ~ 9:50	参加者紹介	
9:50 ~ 10:10	NCCN ガイドラインの最新情報	ジョアン S. マクルーア Joan S. McClure
10:10 ~ 10:30	NCCN ガイドラインにおける予後及び効果予測遺伝子検査	ロバート W. カールソン Robert W. Carlson
10:30 ~ 11:00	欧州における予後及び効果予測遺伝子検査の現状と今後の展望	エミール J. T. ラトガーズ Emiel J. T. Rutgers
11:00 ~ 11:15	休憩	
11:15 ~ 11:35	NCCN ガイドラインにおけるアウトカムデータベース	ステファン B. エッジ Stephen B. Edge
11:35 ~ 12:15	ケースシナリオ 1 ・ 58 歳・閉経後 (Bp+SNB 施術後)・腫瘍径 2.5cm・リンパ節転移 1/12 ・ ER(8)・PgR(7)・Her2(-) N.G1 上記のケースで最も相応しいと思われる治療法は？	中山 貴寛 Takahiro Nakayama 清水 千佳子 Chikako Shimizu
12:15 ~ 13:00	昼食	
13:00 ~ 13:40	アジア諸国における予後及び効果予測遺伝子検査 中国— 13:00~13:20 韓国— 13:20~13:30 台湾— 13:30~13:40	邵 志敏 Zhi-Ming Shao ユン・スク・リー Eun Sook Lee 黄 俊升 Chiun-Sheng Huang
13:40 ~ 14:10	術前化学療法 / ホルモン療法の現状と今後の展望	ベンジャミン O. アンダーソン Benjamin O. Anderson
14:10 ~ 14:40	乳がんの予後予測および術前化学療法の効果予測のための遺伝子検査	野口 真三郎 Shinzaburo Noguchi
14:40 ~ 15:00	術前分子標的療法の効果予測検査法	藤原 康弘 Yasuhiro Fujiwara
15:00 ~ 15:00	休憩	
15:10 ~ 15:40	ケースシナリオ 2 ・ 40 歳・閉経前・腫瘍径 2.5cm・腋窩リンパ節細胞診：class V ・ ER(7)・PgR(7)・Her2(-) N.G1 上記のケースで最も相応しいと思われる治療法は？	武井 寛幸 Hiroyuki Takei 坂東 裕子 Hiroko Bando
15:40 ~ 16:10	米国 I-SPY2 臨床試験における MammaPrint の役割と今後の展望	ローラ J. ファント フィア Laura J. van 't Veer
16:10 ~ 17:20	ディスカッション	佐谷秀行、伊伊雅子、山重慎二 Hideyuki Saya Masako Ii Shinji Yamashige
17:20 ~ 17:30	閉会挨拶	
17:30 ~	レセプション	

2010 NCCN/JCCNB Seminar in Japan

乳がんにおける予後及び治療効果

予測検査法に関する欧・米・東アジア国際セミナー

乳がんは多様性に富んだ疾患です。すべてのがんは遺伝子の疾患、つまり DNA の突然変異によるものです。個々に応じた治療をするため遺伝子レベル情報を使用する治療の流れが加速しています。個別化治療です。

昨年は 21 種の遺伝子の発現プロファイルを用いて解析する Oncotype DX と、70 遺伝子を用いたマイクロアレイで解析する MammaPrint を中心にとりあげ治療効果予測と予後予測を検討しました。

今年は上記 2 種類以外にも枠をひろげ、さまざまな乳がんのタイプに合った治療法、ターゲット治療法を模索します。

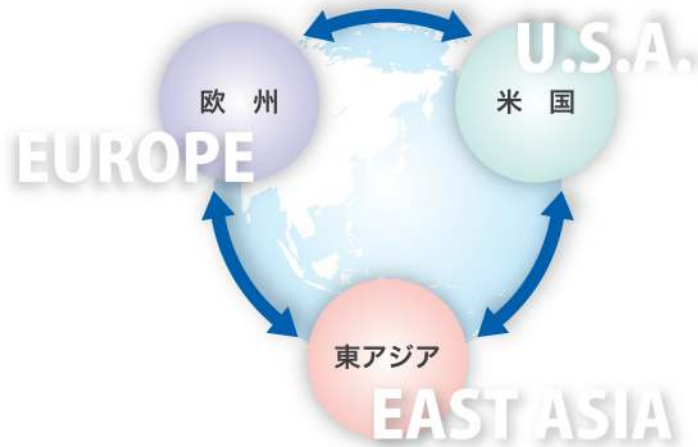
一方、NCCN では、2008 年 1 月より Oncotype DX をガイドライン上に掲載し、それに伴って現在延べ 10 万人を超える乳がん患者が同検査を受け、推計約 30% が無駄な化学療法を回避でき、総医療費は削減される方向にあります。そこで同様の検査が日本人を含むアジア人（韓国、台湾、香港、中国）でも有用であるか否かを実際の臨床データを元に比較検討し、さらに、予後と照らし合わせたマクロ経済における評価を行い、その位置づけを明確にすることを試みます。現在、東アジア諸国でも術後薬物療法に関しては欧米を中心とする国際共同臨床試験の結果を反映した診療が行われています。その治療法選択における効果予測検査法に関しても我が国を始めとする東アジア諸国で同じように導入することが可能か否かに関し、早急に検討し、ドラッグ・ラグのような遅延を回避することが必要であると料料します。今回は東アジア諸国からも医師を招き共に検討し着実に前進していきます。

日 時： 2010 年 11 月 20 日 (土) 09:30 ~ 17:30

場 所： 東京国際フォーラム ホール B5

主 催： NCCN・JCCNB 共催

テ ー マ： 治療効果予測と予後予測 ~乳がんのターゲット治療の模索~



スピーカー

米 国

U.S.A.



ジョアン S. マクローア
Joan S. McClure, MS
全米がん情報ネットワーク (INCCN) 副総裁



ロバート W. カールソン
Robert W. Carlson, MD
スタンフォード大学医学部
スタンフォード癌センター
腫瘍部門 内科学教授



ステファン B. エッジ
Stephen B. Edge, MD FACS
アルフィエロ財団 乳癌におけるエンダドケア
乳癌 メディカルディレクター
リンパ腫治療プログラム メディカルディレクター
胸部・軟部腫瘍外科 部門長
腫瘍学部門 Health Services and Outcomes Research チェア
ロスウェルパークがん研究所 外科教授
ニューヨーク州立大学バッファロー校 医学及び生物科学部



ベンジャミン O. アンダーソン
Benjamin O. Anderson, MD
ワシントン大学医学部 外科教授
公衆衛生学部門 准教授
フレッド・ハッチンソン癌研究センター
シアトル癌治療連合 胸部治療・がん研究プログラム
プレストヘルスクリニック ディレクター

欧 州

EUROPE



エミール J. T. ラトガーズ
Emiel J. T. Rutgers, MD, PhD, FRCS
オランダ癌研究所
欧州がん研究・治療機構乳癌グループ
財務部長 外科部門長 教授



ローラ J. ファン ト フィア
Laura J. van 't Veer, PhD
オランダ癌研究所 腫瘍診断学部門長
アジェンディア BV 社 チーフ・リサーチ・オフィサー
カリフォルニア大学サンフランシスコ校 臨床検査 教授
UCSF ヘルンディラーファミリー総合癌センター
応用ゲノミクス ディレクター、胸部腫瘍プログラム リーダー

東アジア

EAST ASIA



中村 清吾
Seigo Nakamura
NPO 法人 日本乳がん情報ネットワーク (JCCNB) 代表理事
昭和大学医学部乳癌外科 教授
昭和大学病院 プレストセンター長



邵 志敏
Zhi-Min Shao, MD
復旦大学 癌病院
胸部外科 博士号プログラム 指導者



ユン・スク・リー
Eun Sook Lee, MD, PhD
高麗大学校安岩病院
外科 (胸部・内分泌部門)



黄 俊升
Chihun-Sheng Huang, MD, PhD, MPH
国立台湾大学医学院附設医院
国立台湾大学医学院
外科教授 プレストセンターディレクター



野口 眞三郎
Shinzaburo Noguchi
大阪大学大学院
医学系研究科 乳癌内分泌外科 教授



藤原 康弘
Yasuhiro Fujiwara
国立がんセンター中央病院 副院長 (経営担当)
乳癌科・腫瘍内科 科長



佐谷 秀行
Hideyuki Saya
慶應義塾大学医学部 先端医学研究所
遺伝子制御研究部門 教授



井伊 雅子
Masako Ii
一橋大学
国際・公共政策大学院 (兼専)
アジア公共政策プログラム 教授



山重 慎二
Shinji Yamashige
一橋大学
国際・公共政策大学院 (兼専)
公共経済プログラム 准教授



武井 寛幸
Hiroyuki Takei
埼玉県立がんセンター
乳癌科 科長兼部長



中山 貴寛
Takahiro Nakayama
大阪大学医学部附属病院
乳癌・内分泌外科



清水 千佳子
Chikako Shimizu
国立がんセンター中央病院
乳癌・腫瘍内科



坂東 裕子
Hiroko Bando
筑波大学附属病院
乳癌・甲状腺・内分泌外科